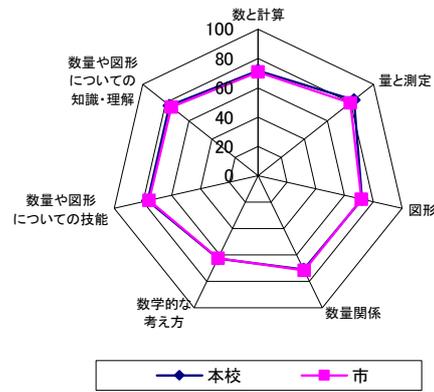


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.7	70.8	65.9
	量と測定	83.0	79.9	77.0
	図形	72.1	71.8	74.6
	数量関係	71.0	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	62.7	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	76.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	76.8	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「真分数＋真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる」の平均正答率は87.3%であり、市の正答率を8.5ポイント上回った。</p> <p>○「分数の除法の文章問題を表した図を選ぶことができる」の平均正答率は74.6%であり、市の正答率を4.6ポイント上回った。</p> <p>●「図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶことができる」の平均正答率は44.0%であり、市の正答率を5.7ポイント下回った。</p>	<p>・与えられた問題場面から数量の単位や単位量に着目しながら図に表すことができるように支援していく。また、表された図から立式するために、図の中の数値を複数の視点で考えることを繰り返し、数量の関係を捉えられるようにしていく。</p>
量と測定	<p>○「値に0があり、答えが小数になる連続量の平均を求めることができる」の平均正答率は91.0%であり、市の正答率を9.2ポイント上回った。</p> <p>○「ひし形の面積を求める式を理解している」の平均正答率は84.3%であり、市の正答率を7.6ポイント上回った。</p> <p>●「図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶことができる」の平均正答率は73.9%であり、市の正答率を2.7ポイント下回った。</p>	<p>・与えられた問題場面で、どの数量を比較すればよいのかを整理して考えられるようにしていく。また、「単位量あたりの大きさ」では、数直線とも結びつけながら、何を単位量(基準量)としたときの何の大きさ(割合)であるのかをとらえ、求めた数値の意味を理解できるよう支援していく。</p>
図形	<p>○「五角形の内角の和を求める式を選ぶことができる」の平均正答率は52.2%であり、市の正答率を3.0ポイント上回った。</p> <p>○「点対称な図形の対応する点について理解している」の平均正答率は92.5%であり、市の正答率を2.0ポイント上回った。</p> <p>●「合同な三角形を作図することができる」の平均正答率は82.1%であり、市の正答率を1.7ポイント下回った。</p>	<p>・合同な三角形の作図については、どの辺の長さや角度を調べるのかを考えさせたり、作図過程を振り返り合同な図形に必要な条件を測定したりする過程で作図に必要な条件について確認していく。また、繰り返し作図させることで、コンパス等の使い方も慣れさせるようにする。</p>
数量関係	<p>○「2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる」の平均正答率は76.1%であり、市の正答率を3.1ポイント上回った。</p> <p>●「反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求めることができる」の平均正答率は72.4%であり、市の正答率を3.8ポイント下回った。</p> <p>●「資料から、数量関係を読み取ることができる」の平均正答率は77.6%であり、市の正答率を4.3ポイント下回った。</p>	<p>・反比例については、比例の場合と対比しながら、2つの数量の変わり方に着目できるようにしていく。その際には、表や式だけで考えを進めるのではなく、図と比べながら、数量の変化が図の中のどこに表されているのかを視覚的に示し、具体的な場面と結び付けて考えられるように支援していく。</p> <p>・資料を読み取る際には、表やグラフの中の数値だけでなく、項目ごとの関連にも着目させるようにする。また、表やグラフの特徴やよみ方についても確認させるようにする。</p>